

# イギリス的な情景

— the scenes in Britain —

早稲田大学 教授  
小田島 恒志

(第4回)

## イギリスの鉄道

ロンドンには「ロンドン駅」という駅はない。行く先の「方面」によってそれぞれ駅が違うのだ。かつて東京から東北方面へは上野駅発、東海道方面なら元は新橋駅発、後に東京駅発、と「方面」別に出発駅が決まっていたのと同じように。さながら上野にあたるのはユーストン駅か、セント・パンクラス駅か、あるいはハリー・ポッターで有名になったキングズクロス駅か。同じ「方面」でも駅がいくつかあるのがややこしい。

ある日、「上越方面」とでもいべきオックスフォードへ行くためにパディントン駅へ向かった。が、何番線の何行きに乗るのが一番早いかわからない。そこで、駅員に聞いたところ「それなら、ほら、今5番線に停まっているあの列車に乗ればいい」と言われてあわてて飛び乗った。やれやれ、と空席に腰を降ろすと、何やら車内アナウンスが流れていると思ったら、回りの乗客が一斉に立ち上がって降りていく。え？ 今何て言ったの？ と茫然としていると、降りていく人が教えてくれた — 「この列車は運休（キャンセル）になったってさ」。そんな、今、駅員に言われた通りにしただけなのに…

イギリスの列車はよく遅れたり運休になったりする、鉄道発祥の国なのに。駅に行くと「Sorry for cancellations of 13.05, 14.20. (13時5分発と14時20分発の列車が運休になり申し訳ありません)」などという掲示が出ていることがよくある。

「Sorry for cancellations, if any. (運休になり申し訳ありません、もしあったら)」という掲示を見たときは思わず笑ってしまった。券売機や公衆電話など3つに1つぐらいは「Out of order (故障中)」の貼り紙がしてあるのだから、列車も例外じゃないのだろう。

実はこれは25年前の話。今では街中いたるところが整備されて、こういう不便は解消された。鉄道路線も分割民営化されてサービスが格段によくなっている。一昨年、久しぶりに列車で旅をした。ロンドンからリバプール、シュルーズベリー、バーミンガムを巡ってロンドンへ戻る予定だったが、途中下車する度に切符を買うのは面倒だと思って出発駅のユーストン駅で相談すると、そのルートなら「リターンチケット（往復切符）」が使えと言う。大幅な割引に嬉々として列車に乗り込み旅を楽しんでいたら、シュルーズベリーへ向かう手前で駅員に止められた。「その切符じゃ乗れないよ」「いやいや、ユーストン駅の窓口で言われた通りに買ったんだけど」「ダメだ」「ダメじゃない」と押し問答に。「だから、ユーストンの駅員さんに言われた通りに…」と言いながら、昔のパディントン駅でのことが脳裏をよぎって不安になった。それでもこちらの言い分を主張し続けていたら、「じゃあ、いいや」と乗せてくれたのもまたイギリスらしい。